

「白頭鷺の英名講座」 第24回

シャクシギ

- コシャクシギ — Little Curlew
または — Little Whimbrel
または — Least Whimbrel

この珍鳥がお膝下の田圃に出現。大挙してバーダーが観察を楽しんだ。私も便乗して吾が Life List（生涯の探鳥記録）に一種追加することができた大物である。

和名の「小杓鷺」は、明らかに嘴の形状から命名された、いわゆる「シャクシギ」のうち、小型であるから「コシャクシギ」に違いない。「シャクシギ」には大、中、小の3種類があり、それぞれ、

- ダイシャクシギ — Curlew
または — Eurasian Curlew
チュウシャクシギ — Whimbrel

という。

“Curlew”とは、もともとこの鳥の鳴き声に由来する言葉で、英語の国民には「カー・ルー」と尻上がりに聞こえるらしい。それに Cur-lew を当てはめたものであり、特に意味は無い。

チュウシャクシギの“Whimbrel”も、声の音調が“Whim”のように聞こえ、「小」の意味の接尾辞の“brel”をつけたものらしい。したがってこれも特に意味はない。

コシャクシギはこの両者の小型であるということから、冒頭に述べたように“Little curlew”（小型のダイシャクシギ）、または“Little Whimbrel”（小型のチュウシャクシギ）とされている。

この場合、形状から命名した和名の方が分かり易いといえよう。では「ハウロクシギ」は同じ「柄杓型」の下へ湾曲した嘴なのに、何故「シャクシギ」に入らず「焙烙シギ」なんだろう？

英名では一応“Curlew”の語を用い、“Far Eastern Curlew”、即ち「極東のダイシャクシギ」ということになっている。ちなみに「焙烙」とはなんぞや？お若い方にはなじみが無いかも知れないので辞書から引用すると「素焼きの平たい土鍋。火にかけて食品を炒ったり蒸し焼きにしたりするのに用いる」（広辞苑）。

ハウロクシギと焙烙の関連は、よくよく考えてみると、焙烙のカーブとあのシギの嘴の下方への垂れ具合に共通性があるのかな？どなたか確実なところをご披露いただきたい。

大宮のハクトウワシ